

平成25年度第2回尾張旭市健康推進委員会 議事録〔要旨〕

【開催日時】

平成26年3月14日（金）

開会 午後1時30分

閉会 午後3時00分

【開催場所】

尾張旭市役所 保健福祉センター4階 シアタールーム

【出席委員：12名】

日比野 清康（瀬戸旭医師会）【委員長】

柴田 浩二（尾張旭市歯科医師会）【副委員長】

加藤 富士子（尾張旭市薬剤師会）

斎藤 征夫（名古屋経済大学）

村瀬 利治（尾張旭市自治連合協議会）

西山 妙子（尾張旭市地域婦人団体連絡協議会）

吉田 与十六（尾張旭市体育協会）

瀨瀬 陽子（尾張旭市健康づくり食生活改善協議会）

三浦 雅子（愛知県健康づくりリーダー連絡協議会瀬戸支部）

鵜飼 佳代子（瀬戸保健所）

青木 峯子（公募委員）

浅野 憲治（公募委員）

【欠席委員：2名】

宮田 敬三（旭労災病院）

森田 敬一（公立陶生病院）

【傍聴者】

なし

【出席した事務局職員】

若杉健康福祉部長、吉田健康福祉部次長、竹内健康課長、長嶋健康課長補佐、稲垣健康課庶務係長、磯村健康課副主幹

【議題】

- (1) 平成25年度保健事業の概要報告について
- (2) 健康あさひ21計画の最終評価について

【会議の概要】

- 1 開会
- 2 議題
- 3 その他
- 4 閉会

1 開会

<欠席委員の確認、会議の公開についての報告、会議資料についての確認等>

2 議題

(1) 平成25年度保健事業の概要報告について

<事務局より資料に基づき説明>

(委員長)

資料にマップが掲載してあるが、この筋トレ体操をやっている会場はどのようなところなのか。

(事務局)

公民館で行っているところもあるが、多くは集会場を利用している。

(委員長)

先日、新聞に報道があったが、尾張旭市にはそういった施設が多過ぎるということであった。しかし、高齢者などの足腰の弱い方が利用されることを考慮すると、身近な場所が良いと思うのだが、当委員会として、このような施設は減らすべきなのかどうか、意見をもらいたい。

(事務局)

近隣の自治体と比較しても、本市は公共施設が多過ぎるということが数字にも出ている。新聞にも出ていたが、このような公共施設はだいたい同時期に設置されてきたため、修繕のタイミングも重なる。修繕費用の試算では、合計で300億とも言われている。市の一般会計の支出額が年間で200億程度であることを踏まえると、そのうち1割を修繕に捻出したとしても、何十年もかかる計算である。このようなことを考えると、修繕等で全体を維持していくということは現実的ではないという意向である。

筋トレ体操は、地域で参加しやすく楽しく行っていただくものであり、足腰の弱い方、引きこもりの方に外に出てもらい、寝たきりにさせないための対策になる。集まって楽しんでもらうことで、さらに活性化するものである。地域に密着した場所があるというのは、事業を展開する上ではありがたいと考えている。

(委員長)

この委員会としては、減らす方に努力することなく、利用者の体力等を考慮した政策をとって欲しいということにしたい。

(A委員)

その件に関連しての意見がある。自治会には補助金制度があり、集会施設等も古く、今のままでは高齢者がトイレを使えない状態なので、リフォームの希望をしたところ、10数万円かかるということだった。集会施設は他にも同じようなものがいくつもあるということで、断られたことがあった。これには「年寄りには集会所に来るな」ということかとの意見もあった。予算は公平に分配し、いろいろな事業をしていかねばならないが、このことについて改善計画はあるのか。

(事務局)

今現在、運営している施設すべてを廃止しようと決めているわけではない。地域でも、学校の校舎でも同じく和式トイレのリフォームの要望がある。トイレひとつとっても、すべての施設を改修しようと思えば膨大な費用がかかるので、出来るところ、必要などころから始めたいが、それぞれの立場によって優先順位が異なってくる。市長も、経営的視点から施設の活用を進めるなかで、市民の声を聞きたいと考えている。要望があれば、ぜひ市に伝えてほしい。声をあげていただきたい。

(委員長)

地域エゴや団体エゴに走らず、よりよくしていきたいものである。

(B委員)

出前講座の要望はどういった団体から出ているのか。

(事務局)

シニアクラブなどの地域組織が多いが、職域から生活習慣病対策の指導に関して要望もある。

(B委員)

それに関連してだが、スポーツ推進員が地域に働きかけようとシニアクラブに声をかけると、「今はもう予定がいっぱいだ」と言われる。地域は、それで良いと感じているのだろうか。

(事務局)

地域によって異なると思うが、出前講座に来てほしいと要望がある地域は熱心なところが多い。そのため、関心のない地域にもまんべんなく働きかけていかないといけないと感じている。

(事務局)

老人クラブは、1年間のスケジュールが決まっており、その上で出前講座を入れるかどうか検討されている。予定がいっぱいであるというのは、その年間スケジュールのことかと思われる。

(B委員)

もともとの計画がすでにあるので、年度内に他のことはなかなかできないということか。

(事務局)

友達同士のグループで集まった際に出前講座を呼んでもらうことも可能だと声をかけている。総会の際に、出前講座をスケジュールに組み込みやすくなるような提案はしている。

(委員長)

では、次の議題に移りたい。

(2) 健康あさひ21計画の最終評価について

<事務局より資料に基づき説明>

(委員長)

何かご意見、ご質問等はあるか。

(C委員)

8割が良い方向との結果でびっくりしているが、心の健康に関する部分が良くなっていない。ストレスは「過度のストレス」という観点で見た方がいいと思う。アンケート結果を見ると、ストレスを発散できているか等の項目はあるが、どのレベルのストレスという捉え方で見ているのか。睡眠の状況についても、年齢別や仕事の有無等、細やかにデータを取ることで、行動指標が見えてきて改善ができるのではないか。

(B委員)

同じところであるが、ストレスはあって当たり前で、個々に感じ方が違う。昔だと、自然の中でストレスを感じつつ、たくましく生活されていた。今は解消する方法もたくさんあるのに、逆に体制ができていない気もする。幼い頃からの鍛錬、我慢を身につけることも大切であり、そのような働きかけが必要であると感じる。睡眠についても、眠れない状況を自らがつくっているという可能性も考えられる。

(事務局)

アンケート報告書で言えば、25 ページや 99 ページにストレスに関連するデータを掲載しているので、合わせてご確認いただきたい。ご意見のとおり、クロス集計していけば見えてくるものがあると思う。

(委員長)

日々の鍛錬も必要だというご意見があった。

(D委員)

最近のがまん強い子どもが少なくなったと感じる。ストレスの種類も年代によって違う。

(委員長)

学校教育もからんで、幅広い話になってくる。

(E委員)

生活の中でストレスは必要なものであるが、過度のストレスはいけない。今、特に注目されているのは「新型うつ」である。職場でも、うつと判断される人が多い。少しのことですぐにうつになってしまうようになった。豊かな環境で育ったので、ストレスの耐性に弱いと感じる。

(委員長)

これは社会問題になりつつあるので、配慮した政策をしていただきたい。時々、私も検死に行くが、若い人であれば自殺が多い。経済的な問題等も絡んでくるため、この委員会では規模が大きすぎる話である。他に意見はないか。

(F委員)

良い報告書ができた。次の年度に入ったら、国の「健康日本 21」の評価結果等もあれば比較ができてくると思う。

(B委員)

健康日本 21 は、行政だけではなく企業・民間も一緒になって推進している。それぞれに健康に関わる取り組みをしているが、無料だから、安いからと来ることが多い。今後の病気の苦しみ、治療費などを考えれば、先行投資になるという考えも意識付けが必要だと考える。

(委員長)

その他質問等はないか。なければ事務局より「その他」についてお願いしたい。

3 その他

<事務局より今後のスケジュールについて説明>

(委員長)

次回、また皆さまの皆様の貴重なご意見をいただきたい。

4 閉会